

各担当理事から寄せられた資料を確認した。

5. 10月7日の各賞贈呈式の段取りについて  
次第を確認した。なお、奨励賞を受賞した箕輪敏行氏が欠席のため代理で坪田理事が受け取る。
6. その他
  - (1) 気象学会が共催する「理工学における同位元素・放射線研究発表会」の次年度の運営委員選出に関する依頼が11月中旬に届く見込み。
  - (2) 気象学会が共催する「風工学シンポジウム」の過

去の論文集のCD-ROM化に当たり、著作権委譲への協力依頼があった。「天気」の「学会だより」に掲載して周知する。

- (3) 日本学術会議の改組に対応して、科学研究補助金(基盤研究等)の審査委員選考方法の変更に関する周知文書が届いた。これまでは関連学会からの推薦で委員を選んでいたが、今後は日本学術振興会自らが研究者のデータベースを充実させ候補者を選ぶ方法に変更する。

## 第33期第2回理事会議事録

日 時：2004年10月6日(水) 18時10分～20時05分

会 場：アクロス福岡606会議室(福岡県福岡市)

出席者：廣田、古川、磯部、伊藤、岩崎、木田、里村、住、多田、田中、津田、坪田、中村(和)、中村(健)、新野、板東、藤部、宮原、山崎、以上19名。

その他の出席者：小宮(福岡管区気象台長(大会委員長)), 相澤(福岡管区気象台(大会実行委員)), 島村(事務局)

議事に先立って、廣田理事長から、秋季大会を担当した九州支部に対して感謝の意が表明された。

### 議 事

1. 2006年度秋季大会の担当機関について  
中部支部が担当することが了承された。
2. 細則の一部改訂について  
出版物の各編集委員会の委員長について、理事に限らず適任の人が参加できる仕組みを作り自在に活動できる場とすること、また、この考え方を庶務と会計を除く全ての委員会に適用することが提案された。2005年度の春季大会の総会議題として提出すべく検討を進めることが了承された。
3. 地球惑星科学関連学会の連携について  
これまでのワーキンググループ会合や常任理事会における議論の経緯が説明された。また、連携組織を2005年5月の地球惑星科学合同大会の期間中に設立する提案が出ていることが紹介された。  
質問として、AGU(American Geophysical Union)のような組織への発展を想定したものか、また、会費は日本気象学会と連携組織の両方に必要か、

更に、個別の学会の開催はどこが調整するのか、などがあった。これらについて、体制の発足が急務であり細かな内容は順次決めること、また、会費についての議論が煮詰まっていないことや、学会の開催についての議論がまだ中途であり、当初は共催と単独開催が混合するであろうことなどが説明された。

新組織への加盟を総会で議決すべきかとの質問があり、議決を必要としない活動報告の形で良いかどうか常任理事会で検討することとした。

4. 気象学会125周年記念行事の準備開始について  
第2回常任理事会で確認した方針と行事案が示された。各支部からも積極的にアイデアを出していただきたい。
5. 大会予稿集のページチャージについて  
予稿に投稿料を課すこと及び免除規定の案が示された。請求の事務処理を軽減させるため、投稿料は事前納入とする考えも説明された。  
大学の法人化により施設利用費が増加し、学会開催費を圧迫していること、また、他学会では投稿料が珍しくないこと、加えて、大会参加費の値上げは好ましくないなどの意見により、投稿料を課すこと自体には基本的に賛同が得られた。  
金額については要検討として常任理事会で更に議論を深め、来年3月の理事会での決定を経て、同春季大会で提案することとした。
6. 第1会東アジア気象学会共催国際シンポジウムの開催について  
2005年度春季大会前に東大キャンパスで行われる国際シンポジウムの内容案が説明された。

住理事が10月の中国気象学会80周年記念大会（北京）に学会代表として出席し、シンポジウムについて確認した内容を帰国後に報告する。

中国、韓国から10～12名程度を招待する線では人選中。研究機関やプロジェクトの支援を受ける。

学会前日の研究会が開催できないので、当シンポジウムで代替していただきたい。

7. 第33期評議員会の方針と候補者の推薦について  
第3回常任理事会で選んだ6名の候補者が報告された。
8. 支部の作業効率化についての照会結果について  
各支部から寄せられた報告や意見を整理した資料が提示された。その上で本部事務局から、繰越金の多い支部はアルバイト等の利用を増やしても良いのではないかと、また、ホームページを創設する際は既設支部の経緯を参考にしているかどうか、更に、「天気」の「学会だより」などを活用してはどうかなどの提言があった。

支部からは、繰越金は毎年安定したものではないことや、ホームページを作る環境が限られているなどの意見があった。また、事務を行う気象庁職員が業務用パソコンでメールを送信しなくて済むように独自にプロバイダと契約している支部や、ホームページの外注を計画している支部の報告もあった。

当面、各支部の特殊事情を具体的に本部まで提示することと、本部交付金の増額を常任理事会の検討課題とすることで了解された。経費を減らすためにホームページやメールの利用が有効との認識は共通しており、今後も機会を見て議論を続けることとなった。

#### 8. その他

- (1) 京都大学生存圏研究所の発足に関し、全国共同利用施設として文部科学省の予算措置が認められた。これについて津田理事から気象学会のサポートに対する感謝の意が述べられた。
- (2) TRMM 衛星の延命に関する気象学会のサポートに対して、中村（健）理事から感謝の意が述べられた。
- (3) 2007年の米国気象学会のレーダ気象会議の日本での開催提案を情報通信研究機構から行ったことが、中村（健）理事から報告された。

平成16年11月15日

社団法人日本気象学会

議長 多田英夫

署名人 板東恭子

署名人 古川武彦

## 2005年度日本気象学会奨励賞受賞候補者の推薦募集

### 記

日本気象学会は、研究環境や研究費に恵まれない方々が行う調査や研究を奨励するために、「日本気象学会奨励金」制度を1970年に設けました。その後、実践的な気象教育を進めている方々も奨励するように選考範囲を拡げました。さらに1998年には、「奨励金」を表彰に重点を移した「奨励賞」と改め、引き続き毎回3件程度の表彰をしております。

奨励賞受賞候補者推薦委員会は、受賞者選定規定に基づいて、候補者を理事会に推薦します。つきましては、広く候補者を募集しますので、次の要領によって2005年度を受賞候補者をご推薦下さい。自薦も歓迎します。なお、日本地学教育学会にも推薦募集案内の通知を依頼しています。

2004年12月

締切：2005年2月28日（月）

送付先：〒100-0004東京都千代田区大手町1-3-4  
気象庁内日本気象学会事務局気付  
奨励賞受賞候補者推薦委員会

用紙：A4判縦、横書き

#### 推薦書および添付資料

1. 研究題目（推薦対象となる研究調査または教育活動の内容を簡潔に示すもの）
2. 受賞候補者氏名（ふりがな）、所属、連絡先、略歴（グループとしての活動も可）
3. 推薦者氏名、所属、連絡先
4. 推薦理由（1500字以内）  
受賞候補者の研究環境（指導者、研究時間、研究費等）について触れる。